

## ウェブマガジン見えた!? 科学する心

【2011.9 vol.153】

応募論文から、工夫を凝らした保育実践や子どもの素敵なエピソードなどをご紹介します

## 「育てる」 ～小さな生き物～

子どもたちは少しずつ世界が広がってくると、身近にいる様々な小さな生き物の存在に気付き、関心を示すようになります。しかし子どもによっては、虫などの小さな生き物の色や形、動きなどから、違和感や恐怖感をもつことがあります。今回は、そんな小さな生き物たちを育てる経験を通して、親しみや慈しみが育まれていく事例をご紹介します。



## ここから見える

工夫を凝らした保育実践をご紹介します



カマキリさん、大きくなったらまた来てね (3～4歳)

伊東市立川奈幼稚園(静岡県伊東市)

虫に対してさほど興味を示さず、怖くて触ることができなかった3歳児が、カマキリの世話をする5歳児の姿から刺激を受け、自分たちでもカマキリを育てるようになりました。やがて卵が生まれ、4歳児に進級した春に…

## ことばのたね

子どもたちの素敵な一言!

赤ちゃんから頑張ったね (3・4・5歳) 呉市奥内保育所(広島県呉市)

幼虫からずっと大切に飼育しているカブトムシがいよいよ蛹室を作り始めました。

4歳児:「おうちのサナギが今、動いた!」それを聞いて、3歳児がケースを叩きます。

4歳児:「トントンしたらダメよ」「サナギになっとんよ」

昨年の記録を基に子どもたちと予測した誕生日より少し遅く、カブトムシになりました。

5歳児:「赤ちゃんから頑張ったね」

5歳児:「カブトムシが生まれて嬉しい!」 4歳児:「今、見えんね」

5歳児:「夜起きて、朝寝るから、ハムちゃん(ハムスター)と一緒にじゃ」



## “あいであ”のたね!

教材・環境の参考に

カマキリの卵 (5歳) 瀬川保育園(大阪府箕面市)

昨年の5歳児から託されたカマキリの卵を、再び園庭の木に付けて孵化させる相談をしました。昨年の経験から子どもたちは、卵がカラスに食べられることを良く知っていて、「空から見えてはいけない」ことに意見が集中しました。

「どこが一番見えないのかなあ」「あのさ、生まれた時も小さいから、すぐ食べられるやろ。だから葉っぱが沢山ないと隠れられないんじゃないの」「付ける紐も緑色にしないと、空からわかつちゃうんじゃない?」「この中がいいと思うわ。葉っぱもいっぱいやし、空からも見えへんやん」

子どもたちが選んだのは、レンギョウで作られたトンネルの内側でした。



実践事例集 vol.8 2章-2「ここやったら絶対見つからへんわ」に掲載 [http://www.sony-ef.or.jp/preschool/practice/vol8/vol8\\_201a7.pdf](http://www.sony-ef.or.jp/preschool/practice/vol8/vol8_201a7.pdf)

## えびそーど

現場の先生方から届いたエピソード

## カマキリ大好き！ (4・5歳)

いわき市立藤原幼稚園 (福島県いわき市)

カマキリの飼育を通して、交尾から産卵、孵化、幼虫、サナギ、成虫と、子どもたちはカマキリの一生にかかわってきました。

自分たちで本を調べていくと、イチゴ栽培で頭を悩ませていたアブラムシが餌になることを発見し、大喜びをしました。

また一方では、「カマキリはあんなに沢山の赤ちゃんから、大人(成虫)になることができたのはたった数匹だけ…」と、子どもたちは、生き物が大人になることの厳しさを感じたようです。



今年の夏休みのお世話はN児がすることになりました。夏休み前は、カマキリに見向きもしなかったN児だったので、本当にお世話ができるか心配でした。ところが夏休み終了後のN児は、「カマキリは蝶の羽だけ残して食べるの」「ちっちゃいバッタが大好き」「カマキリの目はね、昼と夜では違うんだよ」などと、すっかりカマキリ博士になっていました。以前は虫に触ることもできなかったのですが、今ではバッタ捕りの名人になり、他の生き物にも興味を示すようになりました。

生き物とかわることにより、子どもたちは大きく変わりました。そして、保育者も保護者も、今まで思ってもみなかった「カマキリを卵から育てる」という試みに、子どもたちと共にすっかり夢中になりました。カマキリの様子に一喜一憂するうちに、カマキリが大好きになっていきました。

## セミの羽化 (5歳)

浦添市立浦城幼稚園 (沖縄県浦添市)

登園時、A児が道を歩いているセミの幼虫を見つけて持ってきました。元気な幼虫だったので、観察ケースに入れました。ケースの中に入れた長い枝をどんどん上っていき、上で動かなくなりました。

## 朝の会の最中に、背中が割れて羽化が始まり…

B児「これはアブラゼミじゃない？羽がアブラゼミっぽく見える」

C児「違うよ。生まれたばかりはみんな羽、白かったりするよ」

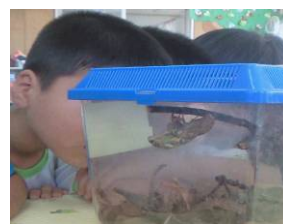
B児「何か茶色になってるよ」 D児「雌かもしれないよ。鳴かないし…」

A児が絵本を持って来て、いろいろなセミと照らし合わせます。

尻尾だけが殻に掛かってぶら下がっているのを見て、

E児「これって落ちこちそうじゃない？」

F児「今は真っ直ぐだけど、体曲げてこっちにつかまってセミになるんじゃないかな？カバマダラもそうだったよ」



## 上と下の羽が乾いて分かれ、それぞれ動く姿に…

F児「羽が伸びてきたよ」 G児「もう飛ぶんじゃない？」

H児「まだだよ！色が変わらないとね。顔色もね」

I児「羽が乾いてきたみたい」 J児「ほんとだ。羽が動いてきた」



## 「いつ逃がすの？」帰りの会で話し合い…

H児「まだ逃がせないと思う。色が黒くないし、まだ白いから」

K児「でも、ご飯どうなるの？」 保育者「セミのご飯は何かかな？」

餌は何かなど話し合った末、翌朝まで待つことにしました。

## 翌朝…

元気なセミの様子を見て子どもたちは安心しました。みんなでセミを放すと、元気に飛び立っていきました。

A児「初めて見られたし、セミになれてホントに良かった。セミになって飛んで、嬉しかった」